

SOWER

ソア=種まく人

No.49

April 2022

一般財団法人

日本聖書協会

特集 講壇用聖書 いま・むかし



新 48 聖書の 世界の

写真／文 横山 匡



パピルスの町シラクサ

「三か月後、私たちは、この島で冬を越していたアレクサンドリアの船に乗って出航した。ディオスクロイの船首像の付いた船であった。私たちは、シラクサに寄港して三日間そこに滞在し：」

(使徒二八・二一―二二)

シチリア島東岸の町シラクサに橋でつながるオルティージャ島を訪ねました。広場の中央に、バロック様式の堂々たるドゥオーモが建っています。豪華な祭壇の両側の壁には、パウロがシラクサに上陸した時の情景が描かれた絵が掲げられています。

この広場から数分南に歩くと、海岸に接して、ギリシア神話に登場するアレトウーザの泉があります。神話には、川の神アルフェウスから逃れようと、妖精アレトウーザが泉になったと伝えられ、パピルスの茂みが見られました。シラクサはパピルスの保護地とされ、「パピルスの町」と呼ばれています。町を流れるアナポ川には繁茂地があるようです。泉の付近の土産店では、素朴なパピルス紙に描かれた絵画が売られています。

聖書の「バイブル」という言葉の語源が、古代の書写材料のパピルスの茎の髄を表すギリシア語「ビブロス」から来たことはよく知られています。

あなたの言葉は私の足の灯
私の道の光。

(詩編119編105節 聖書協会共同訳)

家の中で最も重要な光はシャンデリアではなく、暗闇で躓かないように足を照らす夜光灯。聖書に記された時代のオイルランプは、何メートル先までをも照らすフラッシュライトとは違い、一歩先を照らすほどの灯り。神の言葉は、私たちの一歩一歩を導く明かりである。その明かりに頼って歩む時、続く人々もまた信頼と平安のうちに暗闇を歩くことができる。中国の山村で、宣教師は聖書を通して読み書きを教えたという。読むことを覚えた一人の少女は喜びのうちに感謝の祈りを捧げる。「神様、私を生きた聖書としてください。読むことのできない人々が、私を通してあなたの言葉を知るために。」

小海光

こかいひかり

合同メソジスト教会牧師・宣教師、公益財団法人ウエスレー財団代表理事、日本聖書協会理事會書記

CONTENTS

SOWER No. 49 2022

- 2 ソア49号発行によせて
BS NEWS 具志堅 聖
- 3 特集
講壇用聖書いま・むかし
広報部
- 8 JBS情報
インタビュー 聖書協会共同訳
朗読ナレーターに聞く

イベント情報
聖書協会共同訳セミナー (神奈川県)
- 10 人物と聖書 ㉔ 鈴木範久
矢嶋楫子と聖書
- 12 エッセー ㉕ 岡野絵里子
祈りへの回帰
- 14 AVACOだより
- 15 Bible Guide
聖書協会共同訳 詩編をよむために
ひと時の黙想-全き心を求めて 黙想シリーズ
- 16 日本聖書協会後援会にご入会ください!
「いのちの糧を届けたい!」
- 17 第7回聖書動画コンテスト作品募集



表紙の言葉

今回の表紙はカトリック鶴岡教会です。聖堂は1903(明治36)年に献堂された木造瓦葺のバジリカ型三廊ロマネスク様式で、1979(昭和54)年国指定重要文化財に指定されています。教会内には、日本では珍しい「黒い聖母像」が安置され、訪れる人々の願いを日々受け止めています。青空に映える凛とした美しい佇まいの教会です。(絵・文=佐藤百合子)